

営農技術情報

- たまねぎ第1号 -

作成・発信：令和2年6月23日

JAみねのぶ

電話：0126-67-2334（営農販売課）

空知農業改良普及センター

ほ場観察と発生予察で適期防除を！

1 生育状況について

草丈・葉数・葉鞘径とも平年値を上回っています。

（調査区：岩見沢市）

6/15現在	草丈 (cm)	葉数 (枚)	葉鞘径 (mm)	遅速日数
北もみじ2000 (本年)	54.2	6.9	12.3	+3
平年値	42.7	6.2	10.6	

*表内数値は普及センター本所管内作況値

2 アザミウマ類の発生状況について

美唄市内2ほ場で設置している青色、黄色粘着板トラップですが、ほ場によって捕殺数が大きく違いました（表1）。各自ほ場を確認し、薬剤散布を行ってください。

同一系統の薬剤は連用しないよう注意しましょう。

表1 青色、黄色粘着板トラップ* によるアザミウマ類の推移

（頭）

調査地点	5月6半旬	6月1半旬	6月2半旬	6月3半旬	6月4半旬	6月5半旬
A ほ場 (青)	9	22	49	134		
A ほ場 (黄)	11	23	47	133		
B ほ場 (青)	79	300	420	601		
平年値	113	163	293	199	263	305

（* 25.5 cm × 10 cm 四方のホリバー）

表2 防除薬剤例

系統名	薬剤名	倍率	使用回数	使用時期	散布水量
有機リン	トクチオン乳剤	1,000	4	7日前まで	100～ 300 L/10a
ネオニコ	アドマイヤー顆粒水和剤	5,000～10,000	2	14日前まで	
	★モスピラン SL 液剤	2,000～3,000	3	7日前まで	
スピノシン	ディアナ SC	2,500～5,000	2	前日まで	
ジアミド	ベネビア OD	2,000	3	14日前まで	
その他	★ファインセーブフロアブル	2,000	3	3日前まで	
その他	★グレーシア乳剤	2,000～3,000	2	7日前まで	

3 病気について

(1) ベと病について

平均気温 15℃前後および多湿条件で発病します。感染時期は6月中旬から下旬であるため、湿度の高い条件下では、感染する可能性が高い状況です。過去にべと病の発生が見られたほ場では薬剤散布を行いましょう。その他のほ場は、発生の有無を確認し、必要な場合、薬剤散布します。

防除例

- ・発生前（予防）ジマンダイセン水和剤（400倍）
ランマンフロアブル（2,000倍）
- ・発生初期（治療）リドミルゴールド MZ（1,000倍）
レーバスフロアブル（2,000倍）

(2) 小菌核病について

小菌核病も低温多雨で多発する病気です。ほ場を確認し、発生があればすぐに防除して下さい。病徴は、中下位の葉鞘部に白色斑点を形成し、不鮮明な縦長の病斑に拡大します。病葉の内側には白色、クモの巣状の菌糸が見えます。

防除例・トップジンM水和剤（1,000倍）

- ・アフェットフロアブル（2,000倍）

(3) 白斑葉枯病 について

平均気温 18℃以上で、10mm/日以上又は2日以上の連続降雨後、ほ場の観察により、初発を確認した後、薬剤散布を開始します。その後、15日間隔で2回目以降の防除を以下の薬剤で行います。同一系統の薬剤は連用しないよう注意しましょう。

防除例

- | 薬剤名 | 倍率 | 系統 |
|-------------|----------|--------|
| ・フロンサイド SC | （1,000倍） | フルアジナム |
| ・ストロビーフロアブル | （2,000倍） | Qol |
| ・アフェットフロアブル | （2,000倍） | SDHI |

(4) りん片腐敗病と軟腐病について

りん茎が肥大する時期（球肥大始 平年7/3）から感染しやすくなります。多雨時、連続する降雨が予想される場合には予防防除を行って下さい。

りん片腐敗：多雨で多発。 防除例・コサイド 3000（1,000倍）

軟腐病：高温多雨で多発。 防除例・★銅ストマイ水和剤（600倍）

- ・アグレプト液剤（1,000倍）

*登録内容は、令和2年6月18日現在で確認

*薬剤の倍率は北海道農作物病害虫・雑草防除ガイドの指導参考事項を優先

*薬剤は一例であり、たまねぎに登録があるその他の薬剤も使えます。

*★印の付いている農薬については取り寄せとなる為、事前に資材店舗に連絡願います

農薬使用は、必ずラベルを確認し、ドリフトに注意しましょう！